

第292回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成24年10月22日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員8人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
佐野 晃之	委員	福島 聡	委員
碓井 真史	委員	大久保 千春	委員
田村 明子	委員	尾畑 留美子	委員

会社側出席者

代表取締役会長	前川 磐
代表取締役社長	室川 治久
専務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
取締役（報道・制作・国際担当）	水島 敏夫
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	竹石 尚史
報道制作局長兼報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長合評番組プロデューサー	小木 裕介

事務局	海津 智洋	紫竹 聡子
-----	-------	-------

4 議 題

1) 番組合評

「元気一番生テレビ」

[放送：9月15日（土）10：30～11：25]

(説明：番組プロデューサー 小木 裕介)

2) 会社報告

① BPO 放送倫理検証委員会決定（10月4日）

「日本テレビ『芸能★BANG ザ・ゴールデン』に関する意見」

(報告：竹石編成局長・番組審議会事務局)

② 放送番組の種別報告及び放送番組の種別毎の放送時間報告

(2012年4月～9月) (報告：編成部長)

③ 10月期番組編成の種別報告 (報告：編成部長)

④ 9月の視聴者の意見。 (報告：番組審議会事務局)

⑤ 講じた措置、公表など定例の報告等。(報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、この番組はミヤギテレビをキーステーションとして NTV 系列東北 6 県 6 局と新潟の TeNY を合わせた 7 局の共同制作ブロックネットの同時生放送番組であること、東日本大震災の後に 1 年休止して今年 3 月に復興支援として特別番組で復活し、4 月以降は被災地の宮城・岩手・福島を中心に被災地の復興を応援する意味を込めて各地の「今」を伝えるべく 3 ヶ

月毎に放送している番組であること、被災 3 県以外の各県から被災地へ「元気を送る」「元気のある」中継を届ける内容になっている番組であることなどを報告した。

●南三陸さんさん商店街の人たちと鶴太郎さんの触れ合いでは未だ復興途上の現地事情を考えてしまい視聴する側が戸惑っていたが、きらきら井のシーンなどを見ていて商店街のみなさんの元気がシンプルに伝わってくる気がした。

●志津川漁港では「失ったものもあったけれど、海がきれいになって得られるものもあったよ」というコメントが印象的だった。時間がなくて牡蠣や帆立を持って立っていた人たちのコメントが取れていないのが残念。彼らの今の思いを声や表情で知りたかった。

●津波の絵本の話では、もっとじっくり味わいたかった。鶴太郎さんが「すごいねえ」と言っているだけで視聴者側には良く伝わってこないように思った。

●「にいがた総おどり」では、この踊りの歴史的なことを知らない人にしてみると盛り上がっている理由がいまひとつ分からなかった。新潟からの中継時間も短くて残念だった。

●にいがた総おどりの下駄おどりは誰でも参加できますよと言っていた。祭りらしい踊りだと思うし、もっと全国に PR して欲しいと思った。

●番組の内容が盛り沢山で、次から次へという具合だったので非常に慌ただしい感じがした。でも全体的には元気が出ていて、元気がもらえる良い番組だと思った。

●被災地の様々な観光情報や現地の人たちの「今」を伝えよう

とする番組コンセプトだが、もっと「人間の思い」が画面から伝わって視聴者が見入っていくような内容にして欲しかった。美味しいものやきれいなものを紹介するだけでなく、商店街の人たちの「今の思い」を引き出して欲しかったが、生放送というライブ感を持ちながらの内容では難しいかもしれないとも思った。

●現地を訪問する司会役は訪問先ではお客さん扱いでは駄目なわけで、現地の人たちと同じ目線が入っていかなければ視聴者から共感を得ることはできないと思う。鶴太郎さんと現地の人たちの間にたって現地の人たちの目線で伝えてくれるのが地元放送局のアナウンサーの役目なのだと思う。

●「三陸からです」と言われて、番組の軽いテンポに最初は正直心がついて行かなかった。しばらく見ている内に被災地からもこんなふうに普通に明るく軽く中継が出来て普通の食べ物や産物などの観光情報を伝えることが出来るようになったのだと感じることができた。

●風評被害で困っている喜多方市からの少女たちの踊りも、地元の元気を伝えていて良かった。彼女たちを支える周りの人たちの声も拾って欲しかった。

●養殖業者のコメントで皮肉な話ですがと前置きして「津波が海をきれいにしてくれた」というのがあった。津波の被害と津波の恩恵？の2面性が大災害のなかでもあるという重い内容を軽妙に進行する番組の中でも取り上げられていなのが印象に残った。

●「元気を伝える」「元気を送る」というテーマに「食」を題材とした経済活動を取り上げているのは視点としてピッタリで良

かったと思う。

●大震災以来、消費者が食品の原産地、原材料などの情報に敏感になっている。被災地の人たちが「量より質への転換」や「アイデア商品の開発」に励んでいる様子が伝えられてきて、被災地での生産者としての取り組みや今後の進め方についてとても興味深かった。

●漁港で養殖の話が出ていたが、災害の後で海がきれいになったという話もあり、天然の収穫でもこんな魚が獲れるんだという映像を紹介してくれたほうが漁港としてはもっとインパクトがあったのではないかと思った。

●悲惨な災害の後、ようやく南三陸さんさん商店街を作るまで頑張ってきた人たちの悲痛な叫びを感じると、軽い内容でまとめられた番組作りが残念に感じた。テーマである「元気一番」に合わせて番組作りをするに、もう少し軸を変え、視点を変えてやってみて欲しいと思った。

●このブロックネット番組はこれからも続いていくのだから被災地の各地から元気で復興していく状況をこれからも伝え続けて行って欲しい。

●大被害を受けた南三陸が舞台になるとき、やはり鎮魂という視点があり、明るく元気を伝える内容と重く厳しい現実感とのバランスが番組制作上の難しさだと思う。それでも言葉では伝わりにくくても映像の中に視聴者や被災者に感じてもらい伝わっていくものがあつたように思った。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあつた意見の概要

9月…… 123件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成24年9月24日)から昨日(平成24年10月21日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

- 1) 前回、第291回審議会では「夕方ワイド新潟一番コーナー『がんばる新潟人』カラーラプレゼンツニッポンコレカラプロジェクト第1話～第4話」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。
- 2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧します。

8 今回の第292回放送番組審議会の公表

- 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。
- 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・9月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・9月の単発番組制作一覧
- ・民間放送新聞(9/23, 10/3, 10/13号)
- ・BPO(No.114)

以上